



一、

鴨緑江採木公司ニ對スル政府持分ノ賣却ニ
關スル件

鴨緑江採木公司ノ沿革大要

鴨緑江採木公司ノ沿革ヲ見ルニ、明治三十八年十二月

二十二日日支兩國間ニ締結セラレタル、滿洲ニ關ス

ル日清條約附属協定ニ第十條ニ基キ、明治四十一年五

月十四日「鴨緑江日清合同採木會社」ノ件ニ關スル取

極書ニ十三條ヲ協定シタリ、右協定ノ要旨左ノ如シ

(1) 鴨緑江右岸帽兜山ヨリ二十四道溝ニ至ル間、款江

面ヲ距ル六十清里内ヲ劃定シテ界トシ、界内ノ

木材ハ日支兩國合資ヲ以テ採木事業ヲ經營スル

コト

資本金ハ三百萬元トシ、日支兩國ヨリ各半額ヲ出

三四四

資本ルコト

(3)

従来ノ支那木把ノ事業ヲ保全スルコト即チ劃定
界内ハ會社ノ株代ニ歸スルモ其ノ界外及輝江ノ
森林ハ従来ノ支那木把ノ株代ニ歸シ而シテ木把
ノ要スル資金ハ本會社ヨリ借入レ木把ノ株代セ
ル木材ハ特別ノ場合ヲ除クノ外全部會社ノ買収
ニ歸スルコト

(4)

本會社ノ營業期限ヲ二十五箇年トシ滿期ニ至リ
支那政府ニ於テ會社ノ事業繼續ヲ尚妥當ナリト
認ムルトキハ支那政府ニ出願シテ期限延長ノ許
可ヲ求ムルコトヲ得ルコト

(5)

本會社ハ其ノ收入中ヨリ一切ノ費用ヲ引去リタ
ル純益ノ百分ノ五ヲ報效金トシテ支那政府ニ上

納シ殘餘ノ利益ハ日支兩國株主ノ均等分配ニ歸
スルコト

更ニ明治四十一年九月十一日協定シタル「鴨綠江採
木公司業務章程」ヲ以テ本會社ノ組織業務計算其ノ
他ニ關スル詳細ナル規定ヲ為シ同年九月二十五日ヨ
リ開業シタリ

再來本會社ハ今日ニ至ル迄滿十九年餘其ノ業務ヲ
繼續シ、日本政府ノ出資金百五十萬元ニ對シテハ毎年
利益ヲ配當シ、其配當率ハ第四年度（大正元年）ノ一
分ヲ最少トシ第十一年度乃至第十三年度（大正八年
乃至十年）ノ一割五分ヲ最多トシ、過去十八年間
ニ於ケル配當總額ハ二、四六三、四九六元九四其ノ配當
率ハ平均九分ニ至弱ニ相當セリ

二、本公司政府持分ハ隨意契約ニ依リ賣却ヲ為サントス
其ノ理由左ノ如シ

鴨綠江採木公司ノ成立當初ノ事情ヲ勘フルニ其ノ創
業ノ始ニ於テハ日支兩國政府ヨリ出資シ兩國ヨリ負
ヲ派シ尙ヲ設ケテ營業ヲナスル事業經營ノ基礎相當
整頓シタルニ曉ニ於テハ之ヲ民間ノ手ニ委ヌル意向ナ
リシコトハ本會社章程第一條但書公司業務章程第二
條及第三條ニ依リ明カナリ、即會社章程第一條但書ニ
ハ「但シ會社創業ノ始ニ於テハ兩國ヨリ負ヲ派シ
尙ヲ設ケテ營業シ一箇年後一切ノ事務整頓妥當トナ
リタルヲ俟テ兩國ヨリ招商承辦セシムヘシトアリ
又業務章程第二條ニ「本會社ハ取極書ニ從ヒ兩國
ヨリ負ヲ派シ尙ヲ設ケテ開業シ一箇年後一切ノ事務

整頓妥當トナリタルヲ俟テ兩國ヨリ招商承辦セシ
ムヘシ、本會社開業ノ後ニ至リテ更ニ株式募集章程ヲ
定ムヘキモノトスレト規定シ其ノ第三條ニハ「本會
社ノ資本金三百萬元ハ開業ノ日ニ於テ日清兩國政府
ヨリ各半額ヲ出資ス商辦ニ改ムル際ニハ右其ノ資本
金ヲ全部回收スルモノトスレト規定シ、本公司設立當
初ニ於テハ日支兩國共ニ將來ハ商辦即民業トシテ經
營セシムルモノナルモ本公司ノ開業事務ハ日支兩國
政府ニ於テ之ニ當ルノ意思ニ外ナラザリナリ、
其ノ後所謂商辦ニ改ムルコトナク開業當初ノ儘今日
ニ及ビタルトモ其ノ事業ノ性質ハ當初兩國ニ於テ協
定シタル通り之ヲ官辦ノ儘永ク存續セサル可カラザ
ルモノニアラス適當ノ時期ニ於テ之ヲ民業トナスモ

差支ナカリシモノニシテ尚現在ト雖日本側ニ於テハ
 同公司設立當時ノ意思ト何等変ル所ナク適當ナル承
 継者アラバ之ヲ民業トナスニ差支ナキモノナリ、而シ
 テ本公司持分ノ如ク國際上特殊ノ關係ヲ有スルモノ
 = 付テハ之ヲ民業ニ移スニ際シテハ政府ニ於テ國際
 上ノ關係ニ有リテ充分適當ナル資格アリト認ムルモノ
 ヲ撰定シ之ニ承継セシムルノ必要アリト云フヘキガ
 故ニ本公司持分ノ賣却ニ付テハ其ノ契約ノ性質カ競
 争ヲ許サザルモノナリト云フマシテ從テ會計規則第百
 十四條第一項第一号ニ該當スルモノナリヲ以テ隨意
 契約ニ依ラントスルモノナリ、

三、賣拂價格
 賣拂價格ハ別紙評定書ノ通ナリトス

價格評定書

一、評定物件

鴨綠江株木公司ニ對スル政府持分（出資金壹百五
 拾萬北洋元）

二、價格ノ評定

甲、株木公司ノ財産狀態ヨリ見タル價格
 最近ノ事業年度即ケ大正十五年十一月一日ヨリ昭和二
 年十月末日ニ至ル第十九年度ニ於ケル同公司ノ貸借對
 照表ハ次ノ如シ（以下凡テ北洋元ノ計算ナリ）

資産ノ部	元
現金	一〇、三二六、一九
預金	三、六五九、八七〇、四六
振替貯金	二、五三、三一

受取手形	一〇二七、八三六、四四
假拂金	一九一、七〇三、二三
未收入金	六九八、七九三、三三
木材	七六五、三七七、九六
漂流木	八、八〇八、五四
木把物品	二六、六一四、四二
貸款	一〇、八四九、一二、三一
鴨綠江製材無限	二、三六、五五六、五五
公司資本金	七、四六四、六一三
土地	三、一三、二一七、六八
家屋	五、二四、四九七、三七
建造物	一、七六、七三、五五
船舶	

器具器械 計 八、七八五、八三八、二一

負債部

未拂金	九七、〇〇七、〇三
假受金	二〇、六〇八、〇六
義務貯金	一一、二四、一〇二、二八
日本政府出資金	一、五〇、〇〇〇、〇〇
支那政府出資金	一、五〇、〇〇〇、〇〇
定章公積金	六、七三、二〇五、六三
欵損準備金	三、七五、五〇〇、八四
第二欵損準備金	四、七五、〇〇〇、〇〇
相場差損補充金	二〇、一五〇、二二四
退職慰撫給與基金	三〇、九一三、八二一

新事業基金 一、六〇〇、〇〇〇、〇〇〇
 配當平均積立金 六〇〇、〇〇〇、〇〇〇
 前年度繰越金 一九九、一〇二、六八
 利益金 一、一一〇、六七一、二四
 計 八、七八五、八三八、二一

右ノ内資産ノ状態ヲ調査スルニ

(1) 現金及振替貯金 一〇、五七九、五〇

右ハ何レモ確實ナリト認ム

(2) 預金 三、六五九、八七〇、四六

銀行預金ハ日支兩國銀行ニ大体等分シテ預
 入ルル申合せニナリ居ルモ、目下ノ實況ハ支
 那側取引ヨリ生スル預金ハ支那側銀行ニ、日
 本側取引ヨリ生スル預金ハ日本側銀行ニ預

入レ、著シク何レカ一方ニ偏シタル場合ヲ除
 ク外大体其ノ終トナシ置クヲ以テ、兩國銀行
 ニ對スル預金ノ割合ハ多少何レカニ偏スル
 ヲ常トス、昭和二年十月末日現在ノ狀況ハ左
 ノ如シ

東三省官銀號 二、〇三二、七九二、元
(元以下切捨 以下做之)
 滿洲銀行 一、四四一、二九三、
 朝鮮銀行 一、七三〇、三七、
 中國銀行 八、〇三四、
 正隆銀行 四、七一、二、

計 三、六五九、八六八、

右ノ内朝鮮銀行、中國銀行、及正隆銀行ノ各預
 金ハ其ノ金額モ少キコトナレバ之ガ拂戻ニ

ハ懸念ナカルマシ、
滿洲銀行ハ大正九年經濟界ニ大変動アリタ
ル頃多大ノ打撃ヲ蒙リタル様子ニテ大正十
四年頃ニハ固定貸約三千萬圓ヲ生シ其ノ大
部分ハ又換見込ノ情況ニ在ル由ナレバ株本
公司ノ預金モ相當長年月ニ亘リ徐々ニ其ノ
支拂ヲ求ムルニ於テハ或ハ金額ヲ引出スコ
ト可能ナルヘキマ之ヲ一時ニ引出スコトハ
困難ナリト認メラル、而シテ同行ノ内容ヲ觀
察スルニ大正十五年六月末ノ貸借對照表ニ
依レバ資産總額ハ拂込資本金ヲ除キ四千三
百十七萬圓ニシテ假ニ此内約三千萬圓ヲ欠
損トスレバ純資産ハ一千三百餘萬圓トナル

之ニ對シ對外負債四千二十五萬圓アレバ
令未拂資本金全部ノ拂込ヲ徴収シテ一千萬
圓ヲ加フルモ二千三百萬圓ニ過キサレバ負
債額四千二十五萬圓ノ半額強ニ過ヤズ、以
上ハ極テ大体ノ推算ナルカ更ニ細目ニ亘テ
ハ所有有價證券土地建物等ノ評價ニモ或ハ
相當ノ無理アルマシト推測セラレ又未拂資
本金全部ノ拂込ヲ為シタルコトモ困難ナ
ル事情モアルヘキヲ以テ右預金ハ現在ニ於
テハ四割ノ時價ヲ有スルモノトナスヲ相當
ト認ム

東三省官銀號ハ奉天票ノ下若其ノ他各種ノ
事情ヲ綜合シテ觀察スルニ滿洲銀行同様一

時 = 之カ拂戻ヲ受クルコトハ困難ナリト認メ
ラルルヲ以テ右預金ノ時價ハ前者同様之ヲ
四割トナスヲ相當ト認ム

(3)

受取手形

一、〇二七、八三六、四四

右ハ木材ノ賣却代金ニシテ公司當局ノ説明ニ
ヨレハ多クハ約束期日未到達ニ屬スルモノナレト
モ中ニハ賣却先トノ決済停頓ニ拂込遲延ノモノモ
アリ而シテ右不確實ナル債権ノ金額ノ見込額ハ
之ヲ四割トシ總金額ノ大割ヲ計上スルコトトス

(4)

假掛金

二九一、七〇三、二三

假掛金ノ重ナルモノハ伐木請負者ニ對シ

(5)

未収入金

六九八、七九三、三三

前渡金、材木代ノ前渡金等ニシテ其ノ他各地
郵便局及電報局、各木材検査所各分所等ニ對
スル前渡金等ヲ包含スルモノナリ
右債権ハ大体ニ於テ確實ナリト思ハルルモ
中ニ多少不安ナルモノナキニ非サルヘシト
思ハルルニ付其ノ二割ヲ切捨テ八割ヲ計上
スルコトトス

未収入金ノ内譯ハ木材賣價、托賣木價、漂木賣
價、交還用錢、貸款利息、存款利息、木業保護基金
収入、雜収ニシテ其ノ内主要ナルモノハ木材
賣價、貸款利息ナリ、コノ内貸款利息中ニハ不
確實ナルモノ多ク存スルモノノ如シ、貸款利

(6)

木
材

七六五、三七七、九六

息中運木局分ト吉林林業公司分トニテ其ノ
九割以上ヲ占メ而シテ共ニ目下収入ノ見込
殆トナキモノナリ、賣木價ハ殆ト収入確實ナ
ルヘシト認メラル、要スルニ未収入金ハ其ノ
三割ヲ切捨テ七割トシテ計算スルヲ適當ナ
リト認ム

右ハ次年度へノ繰越木材ニシテ其ノ内譯ハ
流産木材ト山地木材トニ分ル、本木材ノ價格
ハ其ノ所在地ノ價格ヲ計算シ更ニ評價換ト
シテ二分ヲ減シアルモ確實ヲ期スル為ニハ
尚其ノ一割ヲ切捨テ九割ヲ計上スルヲ適當
ト認ム

(7)

漂
木

八、八〇、八、五四

右ハ次年度へノ繰越漂木ニシテコノ内ニハ
手数料ヲ取り返還ヲ要スルモノト材主不明
ニテ公司ノ収得スルモノトアリ、本項モ亦前
項ニ準シ一割ヲ切捨テ九割ヲ計上スルヲ適
當ナリト認ム

(8)

木
把
物
品

二六、六一、四、四二

本項ハ木把ニ賣却スヘキ器具類食料品等ノ
現在高ナリ、大体確實ナリト認ム

(9)

貸
款

一、〇八四、九一、二、三一

右ハ運木局、吉林々業公司等ノ大口ヲ始メ其
ノ他把頭木把等ニ對スル貸金ナリ、本貸金ノ
大部分ハ不確實ナルモノト認メラル之ヲ前

年度（第十八年度）未現在ニ於テ見ルニ左
ノ如シ

運木局 一五八、五〇九元五七

吉林々業公司 一〇〇、〇〇〇、〇〇〇

其ノ他 一五一〇 九八三、七七一、〇〇二

計 一、二四二、二八〇、五九九

貸款ニ對スル處理ニツキ第一年度以來ノ

経過ヲ見ルニ左ノ如シ

年度	貸款期末現在高	不確定高	償却高	故換準備積立金
一	一、二四〇、一六九			
二	八八六、九五四			
三	六一四、五四九			三〇、〇〇〇
四	六三〇、三二一			五〇、〇〇〇

年度	貸款期末現在高	不確定高	償却高	故換準備積立金
五	九二〇、三六二	五八六、一三八		六〇、〇〇〇
六	九四七、二九七	四六七、六〇〇		一〇〇、〇〇〇
七	八四七、九八七	二一八、二六一	三三九、八〇一	一〇〇、〇〇〇
八	五四九、六四八	二六二、六五七		二二〇、〇〇〇
九	八八四、二六九	九二、六〇五	一八一、〇二五	一一五、〇〇〇
一〇	七六〇、四八三	九九、六七九	一〇三、二〇九	二七〇、〇〇〇
一一	八二一、一六三	以下不確定價 推シ明示セズ		一〇〇、〇〇〇
一二	一九九、九二〇			二〇〇、〇〇〇
一三	一、四四六、〇七二			五〇、〇〇〇
一四	一、八八七、五四四			一〇〇、〇〇〇
一五	一、三七七、九五八		一一〇、三二七	一〇〇、〇〇〇
一六	一、六〇二、五九六		九、九三六	一〇〇、〇〇〇
一七	一、三九五、四五二			

一八	一、二四三、二八〇		
一九	一、〇八四、九二二		
計		七四、二九八	一、五九五、〇〇〇

備考

英八年度ノ償却高申二十九萬九千八百一元ハ其ノ期利
ヲ取崩シ四萬九千八百一元ハ其ノ期利

ヨリ償却セリ

右ニ依リ明ナルカ如ク英十一年度迄ハ不確
實額ヲ明示シ其ノ債権總額ニ對スル割合多
キトキハ五割以上ニ及ヘリ第十二年度以後
ハ政策上之ヲ明示スルコトヲ避ケ居レリ而
シテ其ノ不確實ナルモノニ對シテハ数次款
項準備積立金ヲ以テ償却シタリ現在(英二
十年度始)有スル準備金ハ九〇〇、五〇〇元

ナリ

公司當局ハ決算報告書ニ於テ本貸款ニ付左
ノ如ク説明ス

對料棧着ハ把頭關係ノ貸款債権ニ屬スル
モノハ元ヨリ現存セル生産材及擔保物件
ニ基キ之ヲ保全スルモノナリト雖之カ處
分上ノ見込價格ニ超過スルモノ及單ニ保
證ニ止リ些ノ代替物ナキモノ殊ニ事業ノ
荒廢シタルモノニ在リテハ聊カ不安ノ念
ナキニアラサレトモ將來作業ノ幫助或ハ
保證者ノ代償ニ依リ其ノ程度ヲ軽減シ得
ヘク萬一ノ場合之ヲ現有ノ款項準備積立
金ニ比スレハ充分補填シ得ヘト認ムル

ヲ以テ一般債權維持上特ニ不良部分ノ明
示ヲ避ケタルモ其ノ他ノ債權中運木局及
吉林々業公司ニ係ル貸款ハ奉天官憲ノ公
認シタルモノニシテ事業繼續ヲ為シ得ル
限リ敢テ危険ナキモノト認メタリ
以上ノ如ク説明スルモ運木局及吉林々業公
司ハ其ノ利子サヘ未拂勝ニシテ第十八年度
末ニ於テ未収利息ハ運木局六五、一三五元吉
林々業公司分四二、〇六九元アリテ共ニ九金
ノ四割ヲ超過スル現状ナリ、尙公司當局ノ第
十八年度貸款利息ニ関スル報告中
吉林公司ハ殆ト毎年單ニ調定スルニ止マ
リ凡テ未収利息トシテ計上セルニ過キス

(10)

運木局ハ第十七年度ニハ利子ヲ全免シ第
十八年度ニ於テモ奉天公署ヲ通シ前年同
様利子全免方情願アリシモ事情参酌ノ末
半額免除ニ留メタリ云々
ト言明セルニ徴スルモ甚ク不確實ナル債權
ト云ハサル可ラス
右運木局及吉林々業公司以外ノ把頭及木把
ニ對スル貸金モ亦大体同様ノ狀況ニアルヘ
キヲ以テ本貸款ハ入割ヲ切捨テニ割程度ト
ナスヲ相當ト認ム
鴨綠江製材有限公司資本金ニ三六、五五六、五五
本無限公司ハ大倉組ト鴨綠江採木公司トノ
折半出資ニ係ル會社ニシテ現今ノ業況ハ相

當順調ニ進ミ大体ニ割ノ配當ヲナシ居ル狀況ナリ、本公司ノ資産狀態ハ之ヲ詳ニセサルモ株木公司當局ノ説明ニヨルモ相當確實ナル會社ニシテ將來モニ割程度ノ配當ハ可能ナルヘシト云フ

本公司ハ政治上安定ヲ欲ク滿洲ニ在リテ政治上經濟上各種ノ脅威ヲ蒙ルコトモアルヘキニ付日本内地ニ於ケル株價ノ利廻リヨリモ多少高率ニ見積ルヲ穩當ト認メラル、依テ一割利廻リトシテ計算ス

備考 第十八年度ハ出資金北洋元換算ニ
 三六、五五六元配當ハ二割ナリ、尚
 出資金ハ二十五萬圓ナルカ北洋元

(11)

房地物件

ニ換算シタル結果二十三萬餘元トナリタルモノナリ

九七、四七八五、四七

房地物件トハ土地、家屋、建造物、船舶及器具器械ヲ總稱ス

○土地ハ本局令局出張所等ノ敷地ヲ主トシ、コノ他ニ抵當流入耕作地八七、二〇〇坪アリ、土地ノ財産價格ハ安東ニ於テハ大体坪當平均五元弱、帽鬼山ニ於テハ坪當平均四元、耕作地ハ六道溝ニアリテ及當大体一〇〇元ニテ計算シアリ、此令ニツキテハ減價償却ナシ

○家屋ハ安東ヲ始メ各地ニ散在シ、事務所、宿舎、倉庫等ニ使用セルモノナリ、構造ハ木造

瓦葺、支那式煉瓦造、木造板葺、支那式葺葺等各種アリ、減價償却ハ例ハ木造瓦葺ニ付テハ耐久年限ヲ二十年、支那式煉瓦造ニ付テハ十年乃至二十年ト定ムル等相當償却ヲナシ居レ

○建造物ハ貯水池（三萬坪大道溝ニアリ）荷揚場、護岸、輕便鐵道、電話線等トシ其ノ内主要ナルモノハ輕便鐵道及電話線ナリ、輕便鐵道ハ第十八年度末ニ於テ

六道溝	七、五九九	九、一一五
十三道溝	三五、四〇四	一九九、四一二
十九道溝	四五、二一六	二一七、〇一四
計	八八、二一九	四二五、五四一

ニシテ右ハ凡テ建設價格ヲ計上シ減價償却セズ

電話線ハ第十八年度末ニ於テ

八道溝	三三、三八二	三、二二四
十三道溝	八四、八一五	二、一七三
長白縣	一二七、四五六	七、五二一
帽兒山	一一四、一二〇	二、三九一
計	三五九、七七三	一五、三〇九

ニシテ之亦凡テ建設價格ヲ計上シ減價償却セズ

○船舶ハ米公九ト称スル汽船一隻ヲ主トシ其ノ他ハ木材輸送木船ニ復傳馬船十四隻浮棧橋一箇所ナリ、總價格ハ第十八年度末ニ於

一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四
一、〇〇七、七七一	七九〇、一六四	七五二、四六七	七七一、〇五一	七一八、八九二	五二三、四四八	四四〇、三二三	四三六、六四七	四〇三、二〇八	四六〇、九七七	三二四、〇一二	二六四、五〇〇	二二一、一一八
二一、九九六	一九、九一一	二三、七〇〇	二二、一八六	二二、〇五八	一七、九八〇	一五、五二五	一三、九五二	一二、〇四三	二四、八五六	二七、七四四	一〇、五八〇	八、八四四

年度	年度末現在高	償却高
一	一四四、〇七九	一
二	一九五、三一二	九、七六五
三	二一五、五〇三	二二、一八六

一九三一年度末現在高ニシテソノ内汽船ハ一四、三五三
 五三九餘ト計上シアリ、此分ニツキテハ大体
 百分ノ一程度ノ減價償却ヲナシ居レリ
 ○器具器械ハ金庫、馬車、輕便軌道用車輛、鋼索塔
 業用什器等ニシテ第十八年度末ニ於テハ三
 八、九九一元ナリ
 房地物件ハ大体以上ノ如キ狀況ナルカ創業
 以來毎年ノ現在高及償却高ヲ示セ、ハ左ノ如
 シ

種目	金額	割合	確実ナリト認ムル金額
現金	一〇、三二六、一九	全額	一〇、三二六、一九
預金	三、六五九、八七〇	四割五分強	一、五七五、四一八
振替貯金	二五三、三一	全額	二五三、三一
受取手形	一〇、二七、八三六	六割	六、一六、七〇一
假拂金	二九一、七〇三	八割	二三三、三六二
未収入金	六九八、七九三	七割	四八九、一五五
木材	七六五、三七七	九割	六八八、八四〇
漂流木	八、八〇八	九割	七、九三七
木把物品	二六、六一四	全額	二六、六一四
貸款	一〇、八四、九一二	二割	二、一六、九八二
鴨井江製材 有限公司資本金	二、三六、五五六	二倍	四、七三、一一三
土地	七四、六四六	全額	七四、六四六
合計	一〇、三二六、一九		一〇、三二六、一九

以上資産ノ各目ニ付調査シタル所ヲ綜合スルト
 キハ左ノ如シ

之ヲ要スルニ房地物件ニ付テハ左ノ如ク切捨ツルヲ適當ト認ム

土地 切捨ナシ
 家屋 三割切捨
 建造物 八割切捨
 船舶 五割切捨
 器具器機 五割切捨

一七	九九六、五〇八	二三、七五二
一八	九七五、九八五	二三、二六四
一九	九七四、七八五	二三、五九四

一六

一五

計	器具機	船	建造物	家屋
八、七八五、八三八二一	四四、七五〇七四	一七、六七三五五	五二四、四九七三七	三一三、二一七六八
	五	五	二	七
	割	割	割	割
四、七六八、七〇五二〇	二二、三七五三七	八、八三六七七	一〇四、八九九四七	二一九、二五二三七

次 = 負債中株主資産 = 属セサルモノト認メラルルモノヲ調査スルニ

(1) 未拂金 九七、〇〇七、〇三

本項ハ營業賞、房地物件費、地方公益金等ノ内支拂未済ニ属スル債務ナリ

(2) 假受金 二〇、六〇八、〇六

本項ハ手附金、保證金、内入金等ノ他雜多ノ

モノヲ含ム、将来支拂フコトヲ要スルモノ及資産ノ一部ト相殺スヘキモノナリ

(3) 義務貯金 一二四、一〇二、二八

本項ハ公司職員ノ貯金ナリ、

(4) 退職慰撫給與基金 三〇九、一三八、二一

本項ハ職員退職ノ際ニ支給スヘキモノニシテ假リニ今日公司ヲ解散スルモノトスレハ内規ニヨル支給額ハ本基金全部ニテハ尚不足スル由ナリ

以上四項目ヲ合計スルトキハ左ノ如シ(十九年度末現在)

未拂金 九七、〇〇七、〇三
 假受金 二〇、六〇八、〇六
 義務貯金 一二四、一〇二、二八

退職慰撫給與基金 三〇、九一三、八二一
計 五五〇、八五五、五八

外ニ本年度ノ利益中支拂確定セルモノ左ノ如シ

退職慰撫給與基金 一五〇、〇〇〇、〇〇〇

報効金 五二、九八八、七〇

奨賞金 一二七、一七二、八七

地方公益金 四〇、〇〇〇、〇〇〇

日支兩國政府配當金 三六〇、〇〇〇、〇〇〇

計 七三〇、一六一、五七

故ニ以上ニ口合計一、二八一、〇一七、九一五、八株主資産

ニ属セサルモノトシテ之ヲ資産中ヨリ控除スルコト

ヲ要スルコトトナル

之ヲ要スルニ鴨綠江株木公司ノ貸借對照表ヲ調査々

定スレハ 九

資産 四、七六八、七〇五、二〇

控除スヘキ負債 一、二八一、〇七二、一五

差引 三、四八七、六三四、〇五

トナリ、而シテ之ヲ出資額ニ業分スルトキハ日本政府

持分ノ價格ハ百七十四萬三千八百十八元(元以下切捨)

トナルモノトス

乙、利益配當ヨリ見タル價格

鴨綠江株木公司ノ第一年度以來第十九年度迄ニ於ケル
毎年ノ配當ハ左ノ如シ

年度	曆年	配當金額	配當率合
一	明治四年	二一五、九七〇	五、四八
		五、四八	〇、〇七二、箱

右ノ配當率ニ付テ見ルニ創業以來十九年間ノ平均ハ九分ニ強ニ當リ最近十年間ハ一割二分ニ強ニ當リ而シテ最近五々年間ノ平均ハ一割四分ニ當ル創業以來十九年間ノ平均ハ創業直後ノ營業未整頓時代ヲ包含シ且其ノ期間ニ於テ經濟界ニ非常ノ衰動アリ

平均	計	一九	一八	一七	一六	一五
		昭和				
		二	元	一四	一三	一二
二七八、二六二	五、二八六、九九三	三六〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三六〇、〇〇〇
八三〇	八八〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
〇、〇九二	一、七六二	〇、一二〇	〇、〇九〇	〇、〇九〇	〇、一〇〇	〇、一二〇
		強				

一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	明治
													明治
													四三
													一五、〇二三
													三三二
													〇、〇五二強

シテ以テ今日ニ於ケル出資持分ノ評價ノ基礎トナスハ
 適當ナラズト認メラル又最近十年間ノ平均モ同様大正
 七八年頃ノ好景氣時代並ニ接續シテ其ノ餘波ヲ多ク
 受ケタル時期ヲ包含スルヲ以テ将来ノ豫想ノ基礎トナ
 スニハ稍々不安ノ點ナキニアラズ故ニ同公司今後ノ配
 當ヲ豫想スルニハ最近五ノ年間ノ平均ニ依ルヲ比較的
 穩當トシ而シテ之ヲ一割トナスヲ適當ト認ム
 次ニ右ノ配當率ヨリ出資金ノ時價ヲ計算スル為ニ用フ
 一キ利廻ヲ定ムルノ必要アリ、今南滿洲鉄道株式會社
 ノ最近^{民間持分}二ノ年間ニ於ケル平均利廻ヲ見ルニ

大正十五年	七分八厘八毛
昭和元年	} 七分八厘八毛
昭和二年	
昭和二年	七分六厘二毛

平均 七分七厘五毛

即チ七分七厘五毛ナリ
 株木公司ハ南滿洲鉄道株式會社ニ比較スルトキハ本公
 司ハ小資本ノ會社ニシテ社會的ニ信用ノ程度モ劣ルモ
 ノト認メラルヲ以テ利廻ハ南滿洲鉄道株式會社ノ利
 廻ヨリモ幾分高率ニ見積ルヲ要ス而シテ本公司ハ相當
 多額ノ積立金ヲ有スルモ他方營業期限今後六年弱ニ切
 迫リ居リ若シ清算ヲナストセハ積立金ハ貸款及預金等
 ノ償却其ノ他ノ欠損補填ノ為ニ充當スルノ必要アルベ
 シ右ノ兩者ハ大体相殺セラルルモノトシ、利廻リハ滿鉄
 ノ利廻リヨリ一分強ヲ増シタル九分トナスヲ相當トス
 然ルトキハ日本政府持分ノ價格ハ百六十六萬六千六百
 六十六元トナルモノトス

第十八年度決算
財産目録内譯表

鳴緑江株木公司

丙、總括

以上評定ノ結果ヲ綜合スルトキハ左ノ如シ

資産状態ヨリ見タル價格 一、七四三、八一八元

利益配當ヨリ見タル價格 一、六六六、六六六元

依テ株木公司ニ對スル日本政府持分ノ價格ハ之ヲ百七
十萬元トナスヲ相當ト認ム